特集 人は宝／前編

── 人財を企業の成長につなげる ──

コロナ禍が落ち着く一方で、有効求人倍率が右肩上がりに上昇し、人手不足の深刻化が増すばかりです。

その要因は「少子高齢化」や「人材のミスマッチ」等があげられますが、2023年1月に発表された帝国データバンクの調査によると、正社員の人手不足の割合は、「旅館・ホテル」の77.8%を筆頭に、各業種とも高水準での数値を示しています。その一方で、賃金だけでなく、働き手の意識や価値観も大きく変わってきており、経営者としては「人は宝」という認識を深め、従業員とのエンゲージメント（信頼関係）を高める取り組みに着手することが、人手不足解消につながりそうです。

同友会会員企業で、働き方改革に真正面から取り組んでいる企業をご紹介します。

正社員の人手不足割合（上位10業種）

帝国データバンク「人手不足に対する企業の動向調査」より　(%)

		2021年1月	2022年1月	2023年1月
1	旅館・ホテル	5.3	41.9	77.8
2	情報サービス	53.3	65.7	73.1
3	メンテナンス・警備・検査	48.6	60.8	68.7
4	建設	54.6	62.6	65.6
5	人材派遣・紹介	35.4	54.4	63.2
6	自動車・同部品小売	51.8	60.4	63.0
7	金融	40.5	43.8	62.7
8	運輸・倉庫	43.9	55.4	62.2
9	飲食店	25.0	65.1	60.9
10	医療・福祉・保健衛生	40.7	51.2	58.5

NPO法人
自立支援センターおおいた
【南支部会員企業】　理事長　後藤 秀和 氏

別府市石垣東3丁目3番16号 別府J 1階
TEL.0977-27-5508
URL　https://jil-oita.sakura.ne.jp

自立支援センターおおいたのスタッフは、いつも明るくて元気です

バリアフリー観光のガイド本『ばらべっぷ』。障がい者自身が現地まで出かけて取材しているので、実用的だと評判

↑
『ばらべっぷ』のWebサイトは、コチラから

視覚障がい者への理解を促す体験会イベント

後藤秀和理事長

障がい者福祉に携わる人たちの労働環境を向上させたい

別府市石垣に事務所を構える自立支援センターおおいたは、どんなに重度の障がいがある方であっても、地域で自立した生活ができるようサポートするNPO法人です。自らも障がいを持つ宮崎県出身の後藤秀和理事長は、別府について次のように話します。

「別府市は障がい者や高齢者にやさしいユニバーサル環境が整備されているまちづくりとしては、先進的な存在です。私自身は高校時代にバイク事故に遭い、別府重度障害者センターでのリハビリを機に別府市民になりました。以降、障がい者の自立支援や地域福祉に貢献できるよう、様々な取り組みを行ってきました」

同NPO法人の活動は多岐にわたっています。自立支援に向けたカウンセリングやセミナーは、後藤理事長を含め障がいを持つ当事者が手がけるため説得力があり、利用者の意向が尊重される訪問介護事業として高く評価されています。

なかでも観光地・別府らしい取り組みとしてスタートした「別府市ユニバーサルツーリズム推進事業」は、同NPO法人が力を入れて取り組んでいる事業です。ユニバーサルツーリズムとは、「すべての人が楽しめるように作られた旅行であり、高齢や障がい等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行」（観光庁）と定義されています。同NPO法人内では別府・大分バリアフリーツアーセンターを設置し、誰もが温泉や各種観光施設を安心・安全に楽しめる観光モデルを提案しています。

「事業を支えているスタッフたちには感謝しかありません。持ち前の才能を発揮する障がい者もいれば、献身的に介助するヘルパーもいて、障がい者も健常者も同じ方向に向かい、誇りとやりがいをもって働いています」

スタッフから感じる、あふれんばかりのエネルギーは、後藤理事長の“志”に共感している証しだと思われます。

一方、介護・福祉業界の人手不足が深刻化するなか、待遇面も含め、労働環境の改善も急務だと後藤理事長。

「一人一人に寄り添いながら、業界全体の地位向上を図っていくことも、私に与えられた使命です」

ユニバーサル社会の先進地・別府で活動する同NPO法人の存在感は、ますます高まっていきそうです。

株式会社
美装管理
【石垣支部会員企業】　代表取締役　髙野 浩子 氏

別府市天満町16番26号
TEL.0977-21-5311
URL　https://www.biso-kanri.co.jp

美装管理の社員の皆さん。現場で働く社員も合わせれば総勢約70名になります

木部灰汁洗いで見事に再生されたお寺の山門

別府らしく地元温泉の清掃も行っています

髙野 浩子 代表取締役社長

「生涯雇用」を掲げ、高齢社員も働きやすい環境を創出

ビルメンテナンスやハウスクリーニングを主たる業務とする株式会社美装管理は、来年で創立50周年を迎える老舗企業です。宿泊施設や病院、オフィス、マンションから個人住宅の各種清掃業務を手がけています。現場に従事する社員の半数以上が60歳を超えており、「令和3年度高年齢者活躍企業コンテスト」で厚生労働大臣特別賞を受賞されています。

「長年の経験と実績を積んでいるシニア層の社員は、労働意欲も高くて責任感も強く、取引先からの信頼も厚い方々ばかり。当社にとって貴重な戦力になっています」

こう話すのは髙野浩子代表取締役社長。大分県中小企業家同友会の代表理事も務める女性経営者です。

「令和3年に当社の定年を70歳に引き上げ、継続雇用の上限も75歳にしていますが、本人の意向で働きたいという方には柔軟に対応しており、現時点の最高齢は77歳です。もちろん健康管理や福利厚生も最善を尽くしており、20～30代を中心にしたバックアップ体制をとることで、勤務時間も臨機応変な対応を可能にしています」

清掃時に身体への負担を軽減させるため、コードレスの床洗浄機や肩掛け式クリーナーなど設備類の導入に積極的で、作業環境に対する心づかいが伝わってきます。

また、同社が有する特殊な伝統技術が「木部灰汁洗い（もくぶ あく）」です。木造建築の風合いや香りを、木を削ることなく再現する技術で、神社仏閣や古民家の保存に寄与しています。高度な職人技を後世に継承するため、熟練社員と20～30代の若手社員がペアを組んでOJTに取り組んでいることも大きなポイントです。

「これに限らず、高齢社員には若手社員の教育係をお願いすることも多く、マニュアル化できない実務を直接指導していただいてます。当社は素直な性格の若手社員が多いこともあり、『まるで孫と一緒に働いているようだ』と楽しく話す高齢社員もいます」

髙野社長自身も定期的に現場を巡回し、コミュニケーションをとりながらメンタルケアに努めているといいます。

活力あふれる高齢者は、今や無くてはならない存在。「生涯雇用」を標榜する同社の取り組みが注目されます。